

企業ニュース 不二製油グループ本社

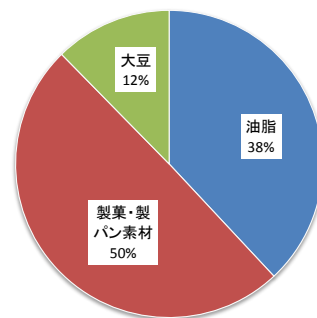
(東証1部：2607) <http://www.fujioilholdings.com>

作成者：兵藤三郎

チョコレート油脂に強みを持つ食品素材メーカー

◇18.3期売上高構成比

1950年、伊藤忠（8001）の全額出資により不二製油を設立。1963年、洋生菓子用チョコレートの販売を開始した。1967年、大豆たん白分離施設が完成し、大豆たん白事業を開始した。2015年、持ち株会社体制に移行し、現在の社名に商号変更した。事業は右図の通り、①油脂（精製油及びチョコレート用油脂などの製造販売）、②製菓・製パン素材（チョコレート、クリーム及び乳加工食品などの製造販売）③大豆（大豆たん白素材などを製造販売）の3セグメントで展開している。2019年1月28日（米国時間）業務用チョコレート世界3位の米国Blommer社を買収した。同買収の業績貢献は20.3期以降となろうが、当社が目指す環太平洋地域でのプレゼンス向上に寄与しよう。両社のシナジー効果としては、原料（カカオ豆など）の調達力強化や生産効率化などが期待できよう。



(出所) 不二製油グループ本社資料より
CAM作成

今期業績低迷も来期以降は再成長フェーズに

19.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上高が2,267億円、前年同期比2%減、営業利益が159億円、同1%増。中国などで販売は伸長したものの、採算を重視した販売戦略、為替影響などにより減収増益となった。営業利益はコスト低減なども寄与した。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,030億円、前期比2%減、営業利益が180億円、同12%減。採算を重視した販売戦略継続、製菓・製パン素材などでの海外グループ会社における為替影響に加え、足元の業績動向などを勘案し、従来計画（18年11月6日、下方修正）から売上高を90億円、営業利益を33億円減額した。利益項目では、Blommer社買収関連費用、中国子会社の事業譲渡を前提とした減損損失なども勘案した。今期の業績低迷は事業戦略や買収経費、一括償却などの一時的要因が大きく影響した。20.3期は、Blommer社買収に伴うのれん償却負担はあるが、一時的な影響はなくなり、シナジー効果も寄与し大幅増益が期待できよう。同社新連結で、中計で示した営業利益成長率CAGR6%以上のガイドライン上に浮上する見込み。

[株価動向・投資判断]

今回の買収に伴うシナジー効果による中期的な成長が見込めよう。今回の下方修正により業績未達リスクは低減したと考える。来期の業績回復に期待し、押し目を狙いたい銘柄。

<2607 不二製油G 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益	1株配当
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円
17.3	292,547	(2)	19,694	(17)	19,712	(40)	12,105	(31)	140.8	44.00
18.3	307,645	(5)	20,481	(4)	19,983	(1)	13,742	(14)	159.9	48.00
19.3 予	303,000	(▲ 2)	18,000	(▲ 12)	17,500	(▲ 12)	11,200	(▲ 19)	130.3	50.00



[主要株価指標]		(売買単位：100株)
株価(2019/2/25)		3,805 円
昨年来高値(高値日)		4,140 円(18/6/11)
同 安値(安値日)		3,000 円(18/2/7)
予想 P E R (19.3 予)		29.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)		1,820.3 円
P B R		2.09 倍
予想配当利回り		1.31 %
(1株当たり配当金50.00円)		
R O E (18.3)		8.8 %
発行済み株式数		8,757 万株